

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

課題番号	18H05256	研究期間	平成30(2018)年度 ～令和4(2022)年度
研究課題名	調和組織材料の革新的力学特性発現機構の解明と次世代構造材料創製指導原理の創発	研究代表者 (所属・職) (令和2年3月現在)	飴山 惠 (立命館大学・理工学部・教授)

【令和2(2020)年度 中間評価結果】

評価		評価基準
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、高強度と高延性を両立した調和組織金属材料の特異な力学現象の統一的な理解と次世代構造材料創製に向けた指導原理の構築を目指している。</p> <p>これまでに、「シナジー硬化現象」と呼称する、特異な強度上昇や高強度化しても局部伸びが低下しない新規延性発現機構を見いだすなど、着実に研究成果が得られている。今後、放射光評価実験とシミュレーションを連携させた本研究の体制の下で、より詳細な力学特性・組織解析を推進することにより、調和組織材料の統一的な理解と材料創製指導原理の構築に向けた研究展開が期待できる。</p>		